

# コミュニケーション科学

科目責任者 入 江 駿

学年・学期 1 学年・2 学期

## I. 前 文

2020年、新型コロナウイルス（COVID-19）の急速な感染拡大は、世界における医療・産業・教育の構造に変革をもたらした。とりわけ、様々なコミュニケーション場面の遠隔化（テレワークなど）の推進は、多様な『働き方』を実現する可能性を秘める一方で、コミュニケーションコストなど様々な問題が提起されるきっかけにもなっている。

本講では、『コミュニケーション』について、人文社会・科学技術・生物学的な様々な視点から学び、学生諸氏が、医師として、社会人として、コミュニケーションについて再考するきっかけにしたい。

## II. 担当教員

入 江 駿【先端医科学統合研究施設 先端医科学研究センター スマート医療研究部門】

## III. 一般学習目標

現代社会におけるコミュニケーションの諸問題を理解する

生物学的視点のコミュニケーション機能を理解する

コミュニケーションに関わる最新のテクノロジーを理解する

## IV. 学修の到達目標

コミュニケーションの手段とその長所・短所を理解する

コミュニケーションに関わる心理・神経システムと疾患との関連を理解する

仮想現実・メタバースなどの最新技術の医療への応用可能性を理解する

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)

2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション

6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	8	21	水	5	コミュニケーションの発達史	入 江 駿	1
2		28	水	5	コミュニケーションに関わる心理と神経システム	入 江 駿	1
3	9	4	水	5	コミュニケーション研究1 脳血流イメージング	入 江 駿	4
4		11	水	5	コミュニケーション研究2 脳波	入 江 駿	4
5		25	水	5	仮想現実・メタバース技術	入 江 駿	1
6	10	2	水	4	コミュニケーション研究3 メタバース開発	入 江 駿	4
7		2	水	5	コミュニケーション科学の医療への応用	入 江 駿	2

## VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

レポート（80%）、出席状況（20%）

Ⅶ. 教科書・参考図書・AV資料

参考図書

武井 勇樹 60分でわかる!メタパース 超入門 技術評論社 東京 2022

その他, 書籍・論文等を配布します

Ⅷ. 質問への対応方法

随時受け付けます(メール・Moodle等を利用することが望ましい)

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎:最も重点を置くDP ○:重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術( ICT )などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート課題は電子提出を原則とし, 採点・コメント等をMoodleにより本人に通知します

XI. 求められる事前学習, 事後学習およびそれに必要な時間

事前: 講義内容について, インターネット等で事前に情報を集める(20分程度)

事後: レポート課題に向けて, 学んだ情報を整理する(15分程度)

XII. コアカリ記号・番号

PR-02-02-01

PR-03-01-01